

平成25年度	北海道小学校長会地区活性化支援事業【研修レポート】
1 実施地区	小樽市
2 研修者氏名	寺澤 真（小樽市立稲穂小学校）
3 研修実施日	平成25年7月30日（火）
4 研修先	国立京都国際会館アネックスホール （第2回 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 京都）
5 研修目的	地域と共にある学校づくりの有力なツールであるコミュニティ・スクールについて理解を深める
6 キーワード	地域と共にある学校づくり、参画と協働 質の高い学校教育の実現 地域の教育力の向上

### 1 はじめに

北海道小学校長会、小樽市小学校長会より、平成25年度地区活性化事業による研修の機会を与えていただきました。

本校は本年度から道教委の学校力向上に関する総合実践事業の実践指定校となり、その取組項目にある地域・家庭との連携について研修を深める必要があると思っていましたので、この機会を活用し「第2回全国コミュニティ・スクール研究大会 in 京都」に参加させていただきました。

### 2 研究大会の概要

- 記念講演「今後の我が国の教育に期待すること」  
日本アイ・ビー・エム株式会社 相談役 北城 恪太郎 氏
- 教育長リレー討議「地域とともにある学校づくり」とコミュニティ・スクール  
佐々田享三（秋田県由利本荘市教育委員会教育長）  
中野和代（三重県津市教育委員会教育長）  
生田義久（京都市教育委員会教育長）
- 実践発表 地域の学校支援や小中連携、一貫教育などコミュニティ・スクールによる先進的な取組を行う教育委員会、学校による研究討議
  - ・ 山口市（大殿地域学校支援本部、山口私立大殿小学校）
  - ・ 岡山市（岡山市教育委員会）
  - ・ 京都市（京都市立下京中学校、京都市立久世西小学校）



### 3 記念講演より

- ◆ 私の経験から
  - ・ アジアの人々はチャレンジ精神旺盛で、自己アピールに積極的である。自分の意見を言わないと相手に伝わらない生活をしている。技術力、語学力が必要である。
  - ・ 子ども時代には、先生の一言、保護者の一言が人生において大きな影響を与える。子どもの成長に結びつく良い点をほめてあげることが大事である。
- ◆ 日本経済・社会の課題とイノベーションによる価値の創造
  - ・ 世界的に様々な課題（グローバル化、IT革命、環境、気候変動等）に直面している。
  - ・ 今後、中国・インドの台頭（人口の多い国が成長していこう）
  - ・ このような中で生活していくためには、イノベーション（新しいことに挑戦すること）こそ唯一最大の原動力になる。新しいことに挑戦する人をほめ称える文化が必要である。
- ◆ これからの社会で求められる人材像
  - ・ 新採用時にビジネスの基本能力として重視する力は、①熱意・意欲②行動力・実行力③チームワーク力④誠実さ・明るさ・素直さ⑤課題発見・解決力
  - ・ 社会人基礎力として必要なのは、「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」
- ◆ 今後の教育改革に向けて
  - ・ 大学の入試改革が必要である。大学受験が目的になっていることを変える必要がある。
  - ・ 初等中等教育では、「自ら学び、考え、行動する力の育成」「基礎学力の育成」「豊かな人間性、高い倫理観をもった児童生徒の育成」「働くことの意義を教える」ことを期待する。

#### 4 教育長リレー討議より

##### ◆ 秋田県由利本荘市

- ・ ふるさと教育を以前から推進していたが、学校の統廃合が進み、地域の方々が学校に関われなくなった人がいる。そのような人も学校に関わることが出来ることをコミュニティ・スクールに求めた。
- ・ 昔からの伝統文化を先生方にも理解してほしい。教師が地域を知ることは教師として独り立ちできるチャンスである。コミュニティ・スクールは、町づくりの一環である。

##### ◆ 三重県津市

- ・ 信頼される学校づくりを目指し、「地域とともにある学校づくりの推進」と、「小中一貫教育の推進」の2つを柱にしている。全校をコミュニティ・スクールに指定。
- ・ 「輝きプロジェクト事業」(学校裁量型予算)を実施し、「特色ある学校づくり」推進事業として全ての学校に12万円を執行。さらに「輝く学校づくり推進事業」として地域連携に取り組む各学校の提案を精査し、予算配当をしている。
- ・ 成果として①クレームが減少した。(日常的な参画、教育情報の積極的発信、不安不満の解消)②問題行動が減少してきた(あいさつ運動が盛んになり、先生方の負担が減った)③地域住民のつながりが創出された。④地域も学校も活性化
- ・ 今後、地域連携を横軸とし、小中一貫(義務教育9年間)を縦軸に組み合わせていきたい。

##### ◆ 京都市

- ・ 「参画」と「協働」をキーワードにしている。「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」伝統を大切に地域ぐるみの教育を推進している。
- ・ 教育の最大の課題は「学校での学びと家庭・社会生活との乖離」と「学校での学びと社会に出て生きて働く力との乖離」である。
- ・ コミュニティ・スクールは学校と地域の関係づくりのための一つの仕組み

#### 5 実践発表より

##### ◆ 山口県山口市立大殿小学校

- ・ コミュニティ・スクールについて、保護者の肯定的な意見が増加している。(94.5%)
- ・ 幼児期から中学卒業までの15年間の子どもたちの育ちや学びを地域ぐるみで見守り支援する地域協育ネットという仕組みをつくっている。
- ・ 地域コーディネータを学校に配置し、学校支援活動の依頼や調整、ボランティア来校時の対応や情報発信をしている。体験活動の充実が図られている。

##### ◆ 岡山県岡山市教育委員会

- ・ 地域協働学校として、中学校区を一つの単位に構成し、各学校園ごとに運営協議会を組織し、中学校区において連絡会を開催している
- ・ あいさつ運動は年3回、安全マップをもとに危険な箇所を実施。校区内に横断幕を掲示したり、標語・ポスターを作成したりして地域で一斉に取り組んでいる。

##### ◆ 京都市(京都市立下京中学校、京都市立久世西小学校)

- ・ 下京中学校は統合校で、学校支援地域本部の取組を中心に進めている。
- ・ 小中学校で目指す子ども像を共有するなど、小中一貫教育の視点を取り入れている。
- ・ 久世西小では、ピア・サポートを活用した小中一貫教育及び小中一体型の「共同機構久世学校運営協議会」に取り組んでいる。
- ・ 中学校の生徒指導困難校の解決のために生まれてきたものである。小学校段階での交流として、合同宿泊学習などを行っている。小小連携から課題を共有し、ピア・サポートを活用し自尊感情を高め自己肯定感を高める取組をしている。

#### 6 おわりに

コミュニティ・スクールは現在全国で1570校指定を受けていますが、文科省ではH28年度まで3000校に拡大する予定です。今後、北海道においても確実に実施されることが予想されます。今回の研修では大変刺激を受けました。特に、コミュニティ・スクールの役割には、「うめる」「正す」「生かす」「知らせる」「つなげる」の5つの視点があることを学ぶことができたことは有意義でした。今後の学校経営に生かしていきたいと思えます。